

TLP フランス語：「先頭集団」の形成のために

原 和之（前期課程：フランス語・イタリア語部会）

【2】全くの偶然なのですが、本日3月12日はフランスの文化通信省が主催する「フランス語・フランス語圏週間（Semaine de la langue française et de la francophonie）」の初日にあたります。フランス内外のフランス語を使用する国や自治体でさまざまな行事が行われ、その数は一週間に70カ国で1500以上にのぼる大がかりな企画です。

なぜこのような規模になるのか、国際フランコフォニー機関の地図で見てください。

【3】この図では色が濃いほどフランス語話者の割合が多くなっています。フランス語が話されている国としては、本国以外に、海外県であるカリブ海のグアドループ、マルティニック、仏領ギアナ、レユニオンなどのほか、ベルギー、スイス、カナダのケベック州、オセアニアのニューカレドニア、それから旧植民地の東南アジアやアフリカの諸国があります。とりわけアフリカの国々は、ご覧の通りフランス話者の比率が多いということがおわかりいただけるでしょう。【4】このアフリカ地域での人口増加もあって、2010年以降、日常的にフランス語を用いる者の数は7%増加しています。現在のフランス語話者人口は公称2億7400から7500万人、うち日常的にフランス語を用いている者が2億1200万人ということになっていますが、それが2050-2060年には現在の3倍を超える七億人に達するとする推計もあります。

世界で英語に次いでよく学ばれている言語であり、ビジネスの世界でも英語と中国語に次いで用いられている言語。2014年時点で1億2500万人が学んでいる言語。他方で国際機関やオリンピックでも公用語として用いられ、学問の世界でも多くの成果を生み出し蓄積してきた言語。そうした拡大しつつある機会と膨大なリソースへのアクセスの第一歩を、TLPフランス語は提供しようとするものです。

【5】フランス語のTLPカリキュラムは、必修の一行二列で言葉の基本的なメカニズムを学び、TLPインテンシヴで口頭や筆記による具体的な運用を訓練する、という形を取ります。この後者はいわゆるヨーロッパ言語共通参照枠による言語能力の評価で重要な役割を果たします。またこうした実践的な訓練を集中・体系的に行うことで、早い段階からの海外修学の可能性が開けます。具体的な可能性としては、フランス政府の留学支援機関「キャンパス・フランス」のファビアン・ルディエ日本支局長から、TLP生むけの激励のメッセージとともに非常に詳しい留学ガイドをご紹介いただいていますので、最後にご紹介する部会のブログをぜひご覧ください。

TLPインテンシヴは三コマを同一メンバーで一体運用しますので、TLP生には一行二列の通常のクラスに加えて、もう一つのクラスができることになります。 Semesterごとに、英語とフランス語について期末評価があり、その結果によっては入れ替えがあります。我々としてはTLP生の皆さんが、フランス語履修者のなかで、あるいはひろく、新たな世界へと踏み出していこうとする前期課程の学生たちのなかで、【6】ある種の *peloton de tête*、すなわち「先頭集団」を形成してくれることを期待しています。ごらんの写真はそう、フランスといえば、「ツール・ド・フランス」ですね。「先頭集団」は固定したものではなく、抜きつ抜かれつするうちに入れかわります。しかし集団は集団として存在し続け、それがレース全体を駆動する力になる。同じようにTLPが前に進むことで、前期課程全体を活気づけてくれることを願っています。そしてそのためには、TLPの活動が他の学生にとっても見えるものになっている必要がある。その一助にということで、【7】このあとTLPフ

ランス語関連の情報については、部会のホームページやブログを通じてできる限り発信してゆこうと考えています。T L Pフランス語の試みを温かく見守っていただけますよう、そして学生の皆さんにはぜひ参加いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

【8】ご静聴有り難うございました。

---

<sup>i</sup> « Et demain la francophonie. Essai de mesure démographique à l'horizon 2060 », par Richard MARCOUX, en collaboration avec Marie-Eve HARTON, Cahiers de l'ODSEF, 2013.